

楽器店/工房/メーカー/演奏家の方へ

# 新型コロナウイルスに対する適切な対処法

発行：2020/7/14

## 管楽器



日本語版

情報提供

CSFI（フランス楽器製造組合会議所）、  
ITEMM（欧州音楽専門職技術研究所）、  
楽器メーカー（フランス）、フランス政府労働省

本資料は、現時点における知見に基づき、新型コロナウイルスに対する危機管理のため作成されました。  
本資料はフランス国内の法律に基づく情報であり、各国の法規に合わせて対応する必要があります。

本資料は、英語および仏語の原文からクラリネットに関する章を（株）ビュッフェ・クランボン・ジャパンが翻訳したものです。  
翻訳には細心の注意を払っておりますが、内容の最新性、確実性、有用性その他を保証するものではありません。  
コンテンツ等のご利用により万一何らかの損害が発生したとしても、当社は一切責任を負いません。



# 目次

本資料は赤枠内の章を抜粋し、翻訳しています。

<b>はじめに</b>	3
1. 注意事項	3
2. 重要なポイント	4
<b>消毒剤の製品と手順</b>	5
1. 接触式で使用される消毒用製品	5
2. 非接触式による消毒法	6
3. 隔離	6
4. 管楽器の場合	7
<b>試奏時の推奨事項</b>	8
1. 受け入れ側の対応	8
2. 空間のレイアウト	8
3. 注意事項	9
<b>クラリネット</b>	10
材料	10
適合性一覧表	11
消毒のポイント	12
<b>オーボエ、イングリッシュホルン</b>	14
材料	14
適合性一覧	15
消毒のポイント	16
<b>バスーン、ファゴット</b>	18
材料	18
適合性一覧	19
消毒のポイント	20
<b>サクソフォーン</b>	22
材料	22
適合性一覧	23
消毒のポイント	24
<b>フルート、ピッコロ</b>	26
材料	26
適合性一覧	27
消毒のポイント	28
<b>リコーダー</b>	30
材料	30
適合性一覧	31
消毒のポイント	32
<b>金管楽器</b>	34
材料	35
適合性一覧	36
消毒のポイント	37
加熱処理	38
<b>マウスピース（木管・金管）</b>	40
<b>アクセサリ</b>	43



# はじめに

## 1. 注意事項

**本資料は、ウイルスとの接触の疑いがある場合のみ適用される、管楽器の消毒に関する推奨事項をまとめています。**

本資料は消毒についての情報を網羅することを意図したものではないため、掲載されていない他の解決策も効果的である可能性があります。本資料で掲載している情報は、議論、および、いくつかの製品やプロセスを用いた実験をもとにしています。資料の中で推奨している解決策は、現時点の知見に基づいており、新型コロナウイルスに対して早期に対策を提案するためにまとめたものです。ウイルスに対して本資料が提案する解決策の実際の効果はまだ保証されていません。本資料で推奨しているのは、ウイルスの濃度を下げたために効果が期待されている消毒方法です。

**いかなる場合においても、楽器とアクセサリの手入れと定期的なクリーニングを徹底することが最も重要です。**

一般的に、店頭で楽器やアクセサリを取り扱う場合には、マスク着用と手洗い・消毒を徹底し、製品を取り扱った後に再度手洗い・消毒を行うことで、奏者・技術者間、楽器・アクセサリ間でウイルスが感染するリスクを大幅に軽減することができます。しかし、管楽器の場合、奏者が楽器やアクセサリを試奏する際はマスクを着用できません。試奏が新型コロナウイルス感染の原因とならぬよう、追加の対策を講じる必要があります。

楽器/アクセサリにウイルスが付着する可能性のある状況を以下のとおりまとめました。それぞれのケース、また、奏者、メーカー、店舗等、立場によっても必要な対策は異なります。

### • 店舗、工房

- 複数の奏者が同じ楽器やアクセサリを試奏する場合
- 楽器・アクセサリの受け渡し時（販売・レンタル）
- 修理中

### • 展示会・見本市などのイベント中

- 楽器やアクセサリの試奏直後

### • その他

- 楽器・アクセサリの貸し借り、共有など、所有者以外の奏者が楽器を使用した場合

楽器とアクセサリの使用者が変わらない限り、消毒の必要はありません。  
しかし、ウイルス感染流行期に限らず、楽器/アクセサリの定期的な手入れとクリーニングは必要です。



# はじめに

## 2. 重要なポイント

- 作業前には、手を十分に洗浄・消毒し、楽器・アクセサリーの各部を、清潔な、または消毒済みの布やスワブ<sup>1</sup>で拭き取ってください。楽器やアクセサリーが乾燥していて清潔であれば、消毒も効果的に行うことができます。
- 本資料に記載されている消毒用製品や消毒方法を楽器・アクセサリー全体に用いる前に、必ず楽器・アクセサリーの一部でテストを行ってください。

消毒には、主に2種類の方法があります。

- **接触式**：一般的にはウイルス消毒剤を用いて表面をこする、または拭く方法
- **非接触式**：電磁波（UV-Cなど）、加熱処理、ガスや霧（オゾンなど）を用いた処理、隔離等の方法

現在、非接触式は、医療・産業分野以外では、未だ確実な対策が確立しておらず、取扱いには十分な注意が必要で、リスクを抱えているケースがほとんどです。接触法による消毒は、より容易に消毒結果をコントロールできるため、推奨されています。

[1] 消毒（有効な製品を使用）や洗浄※（60℃以上の洗剤で30分以上洗う）をしていない布やスワブを、繰り返し使用することは避けましょう。消毒や洗浄ができない場合は、気密性の高い容器に入れて処分してください。

※訳注：ビュッフェ・クランポン・ジャパンでは、60℃以上の洗剤で30分以上スワブを洗浄しても問題がないか検証できておりません。スワブが汚れたときは、中性洗剤または石鹼を使い、ぬるま湯で手洗いされることをお勧めしています。



# 消毒用の製品と手順

## 1. 接触式で使用される消毒用製品

下記の製品を使用することで、ウイルスの濃度を大幅に下げる消毒が可能です。

- **塩素誘導体：塩素系漂白剤（有効塩素0.5%）**

この値は、有効塩素の濃度に対応しています。塩素誘導体は一般的に2.6%で入手できます。つまり、0.5%以下にならないように最大5倍に希釈します。例えば、これは2.6%の製品を4倍の冷水で希釈し、最大限の消毒・抗ウイルス作用を得るためには15分の使用時間（訳注：浸ける、付着させるなど）が必要です。但し、塩素系漂白剤は気化すると皮膚、目、呼吸器に刺激があります。

**注意：酸性の製品などと混ぜると、有毒な塩素ガスが発生する危険があります。**

そのため、塩素系漂白剤を他の製品と混ぜて使用しないでください。また、塩素系漂白剤（CAS 7681-52-9）は銀製や銀めっきのパーツには使用しないでください。アルミ、スチール、その他の鉄合金の場合も黒ずみの原因となり、著しく劣化させます。

塩素系漂白剤から0.5%程度の塩素溶液を作るにはどうしたら良いのでしょうか？			
原液を取り扱う際には、保護手袋やゴーグルを着用することを推奨します。			
基剤		希釈	
有効塩素の% (C.A.)	次亜塩素酸ナトリウムの% (NaClO)	塩素系漂白剤の分量	水の分量
1,00	1,05		1:1
2,60	2,73		1:4
3,60	3,78		1:5
4,80	5,04		1:7
5,00	5,25		1:8
5,86	6,15		1:10
9,60	10,07		1:15

- **アルコール（70%以上）**

アルコールは広く認められた抗ウイルス剤です。推奨されるアルコールはエタノール（最も一般的なもの）とイソプロピルアルコール（訳注：別名でイソプロパノール、プロパノール、IPA）です。濃度は、少なくとも70%で、可能であれば、防腐剤などの添加物が使用されていないものを選びます。アルコール系溶液（エタノール CAS 64-17-5、イソプロピルアルコール CAS 67-63-0、一部のNF EN 14476製品\*）は、脱脂性があるため、木材やプラスチックなどの研磨された素材の艶を消す結果をもたらします。

また、**これらの製品は引火性が高く、目に刺激を与えて眠気を誘うこともあるため、取り扱いには注意が必要です。**

（\*訳注：欧州規格でウイルス不活化に有効とされる製品）

- **薬局で入手できる3%の過酸化水素水**

- **NF EN 14476規格に準拠した製品**（Sanytol®, Sani-Cloth®, Cleanisept®, Arsilom®, Virunet®など）  
一般的に、有効成分は過酸化水素、アルコール、第四級アンモニウム、ジデシルジメチルアンモニウムクロライド（CDDA）または塩素ベースの誘導体であり、正しい使用方法（例えば、使用時間）を守るよう注意してください。

- **石鹼や中性洗剤**

楽器によっては、石鹼を用いて手で拭くのと同レベルの摩擦を与えたり、拭き取り時と同じ分量の水を使えないこともあります。その結果、石鹼や中性洗剤は前述の製品に比べて効果が薄い可能性があります。

**消毒剤の使用時には、メーカーの指示に従って使用するよう、十分注意してください。**



# 消毒用の製品と手順

## クロスについての注意事項

- **マイクロファイバークロス**

ニスなどの表面仕上げに傷をつけることなく使用でき、消毒や洗濯をすれば再利用できます。（60℃以上の温水で洗剤を使って30分以上洗濯※）

- **乾いたクロスまたは研磨布**

消毒や洗濯をすれば再利用できます。（60℃以上のお湯で洗剤を使って30分以上洗濯※）

- **ウェットクロス**

NF EN 14476<sup>2</sup>規格に準拠し、研磨剤が配合されていないことを確認のうえ、ラベルに記載されている説明に従って使用してください。

- **セルロース入りのペーパータオル**

楽器やアクセサリーの表面に傷がつく恐れがあるので推奨しません。

※訳注：ビュッフェ・クランボン・ジャパンでは、60℃以上の洗剤で30分以上スワブを洗浄しても問題がないか検証できておりません。スワブが汚れたときは、中性洗剤または石鹸を使い、ぬるま湯で手洗いされることをお勧めしています。

## 2. 非接触式による消毒法

インターネット上などでは、楽器やその他の製品用として、紫外線やオゾンを使用した具体的な消毒手段を提案するショップや記事が多く見られます。専門家や科学者、独立機関が認定していない方法の使用によって生じる健康被害については、十分な注意が必要です。

- **紫外線**

UV-Cの紫外線は、肌や目に有害で、空気中にオゾンが発生させる毒性があるため、使用に際しては細心の注意を払って取り扱う必要があります。さらに、楽器に直接照射できない部分では、完全な効果を発揮しません。UV-Cランプの波長（220～280nm）、パワー、距離、露光時間を考慮することが重要です。詳細は、CSFIおよびITEMMのウェブサイトに掲載されている資料「UV-Cを使用した消毒方法に関する警告」を参照することを推奨します。

- **オゾンガス**

ウイルスを不活化することができますが、高濃度のオゾンは人体に有害です。使用の際は高度な専門知識と技術が必要であり、現状では推奨できません。詳細はCSFIとITEMMのウェブサイトに掲載されている書類 "オゾンを使用した消毒方法に関する警告." をご覧ください。

- **加熱処理**

56℃以上の温度で長時間加熱すると、RS-CoV SAなどのウイルスの寿命が短くなることが認められています。加熱処理を適用できるのは、特定の楽器・アクセサリーのみです。これらは、金管楽器に関する説明（p. 38）で紹介されています。

## 3. 隔離

隔離に関しては、いくつかの要因が影響するため、まだ十分な定義がありません（ウイルスの生存率は、材料、材質、湿度、温度、タンパク質やバイオフィームの存在など、様々な要素によって変化します）。

このような理由から、ウイルスが付着した可能性がある場合は、隔離期間を長め（6日～9日）に想定することを推奨します。これらは、新たな研究成果が公開され次第、更新予定です。

銅	ゴム手袋	布	スチール	ガラス	木材	紙	金属	プラスチック
～4時間	～8時間	2日	2～3日	4日	4～5日	1～5日	5日	4～9日

«出典 " Fathizadeh H, Maroufi P, Momen-Heravi M, Dao S, Köse S, Ganbarov K, Pagliano P, Esposito S, Kafil HS. SARS-CoV-2 (COVID-19) に対する保護と消毒方針. Infez Med. 2020 Ahead of print Jun 1 ; 28(2) :185-191. »

2] NF EN 14476規格は、製造業者によって指定された要領で使用した場合、製品がウイルスの99.99%を不活化し、消毒できることを示しています（10000で割った値）。



## 消毒用の製品と手順

### 4. 管楽器の場合

消毒方法は、主に楽器・アクセサリーの材料や仕上げとの適合性によって選択することができます。管楽器の場合は、マウスピース、フルートの頭部管など、口に触れる部分の消毒が最も重要です。また、水滴や唾液が付着する可能性があり、演奏によって結露が形成される楽器の内側も重要です。ケースや楽器の外側も材質によって消毒することができますが、これらの部分の新型コロナウイルスの感染リスクは前述の部分ほどではありません。

本資料は、現代の楽器/アクセサリーを主な対象としています。材料と仕上げが異なる可能性のある古い楽器については、現時点では検証は行われていません。リード（シングルまたはダブル）についても、各楽器奏者が個人的な消耗品と定義し、本資料では特記していないことをご留意ください。



# 楽器試奏時の注意点

## 1. 受入れ準備

- 予約制での受け入れを優先させる。
- 入店時の健康状態の確認を行う：政府の外出自粛解除の要領を参照する。
- 試奏者の健康状態が疑わしい場合は、試奏を中止する。

## 2. 店舗のレイアウト

- **推奨する空間タイプ**  
部屋が十分に広い場合は、粒子が空気中に分散しやすくなるため、試奏に関連したリスクは減少します。そのため、できる限り広く、窓や、高性能なフィルター（下記参照）を備えた機械換気のある部屋を推奨します。
- **設備**  
水分の落下やエアロゾルの前方への飛散対策には、一部の店舗のレジなどに使用されているアクリルのパーティションが推奨されています。パーティションを使用する場合は、試奏後に都度消毒を行う必要があります。
- **換気・空調**  
空気をできるだけ頻繁に換気することが重要であり、高性能な機器（例：HEPA機器）を搭載しておらず、定期的に清掃されていない内気循環システムは避けるべきです。現時点では、管楽器特有の対処法はなく、原理は一般の場合と同じです。

**自然換気：**楽器を試奏する部屋は、できるだけ頻繁に、換気をすることを推奨します。理想は試奏後に毎回換気をすることです。現状、公式機関が推奨する特定の換気時間や確立された方法等はありません。しかし、換気量にもよりますが、1人あたりの演奏後10分～15分程度の換気が適切と思われる。

### 機械換気

- 機械による強制換気を行う場合は、可能な限り自然換気を併用しましょう。例えば、1日2回、10分～15分程度の自然換気で補完すると良いでしょう。
- 送風機は人から人への粒子を拡散させる可能性があるため、密閉された空間での使用は避けた方が良いでしょう。理想的な状況は、排気や消毒作業に効果的な垂直層流型の換気システム（訳注：無菌病室などに使用されている換気システム）を有することでしょう。
- 空気清浄機は、他の方法で換気ができない場合の補助的な解決策として考えることができます。しかし、機種とその仕様には注意が必要です。

- **人数と距離**

試奏用に準備されている部屋や場所では、可能な限り一人で試奏することを推奨します。他に人がいる場合は安全な距離を保つ必要があり、現在、管楽器演奏時に推奨されているソーシャルディスタンスは、通常1.5メートルです。また、奏者とは向き合うことを避け、横や後ろに並びましょう。



# 楽器試奏時の注意点

## 3. 注意事項

- **試奏の前後**

楽器やアクセサリは清潔なものを使用し、可能な限りマスクを装着した状態で取り扱い、清潔な手で操作しましょう。楽器やアクセサリは予め準備された、指定の場所に置きましょう。試奏後は、楽器やアクセサリを消毒してください。奏者は試奏前後に手を消毒しましょう。

- **試奏時間**

楽器内部の過度の結露を避けるため※、同じ楽器で 15 分以上の演奏は避けましょう。

(※ 訳注：結露を避けるために、スワブをこまめに通すことが重要です。)

- **結露**

試奏する前に、楽器を室温に慣らしておくことを強く推奨します。低い温度で保管されている楽器は、吹き始めに結露を生み出しやすくなります。試奏時の結露は、感染リスクのある水分の蓄積と排出を避けるために、可能な限り頻繁にスワブを通して拭き取ってください。結露した水分は、密閉容器、または消毒液を含む容器に排水することを推奨します。また、試奏した場所の床などは掃除しましょう。水分が乾く前の掃除が好ましく、床に堆積した粒子を再び飛散してしまうため、掃除機の使用は避けるべきです。



# クラリネット

## クラリネットの部位の名称



## 材料

### • 管体、バレル、ベル

クラリネットは一般的にグレナディア材で作られています。副次的に、ツゲなどの他の高密度な木材種や、黒檀などの材料から作られることもあり、また、グリーンライン®のように研磨された木のような材質の複合材が使用されている場合もあります。クラリネットに使用される木材は最低限の研磨が施されていますが、着色されたり、オイルやニスラッカーが塗られていることもあります。また、一部の学生クラリネットには、ABS樹脂（アクリロニトリル・ブタジエン・スチレン共重合体）のようなプラスチック製のものもあります。さらに、クラリネットは稀に、エポナイトや金属（ニッケルシルバーや銀）で作られていることもあります。

### • キー

キーは通常、真鍮（銅＋亜鉛）やニッケルシルバー（銅＋ニッケル＋亜鉛）などの銅合金で作られています。キーはほとんどがめっきされており、最も一般的なめっきは、銀めっきとニッケルめっきの2つです。また、金や銀のロジウムめっきが施されたキーもありますが、これらのキーはより限定的なものです。

### • パッド

パッドに最もよく使用されている材料として、フィッシュスキン、コルク、レザー、ゴアテックスなどがあります。その他、合成素材のパッドもあります。

### • 接合部のコルクとキーの裏側のコルク

接合部とキーの裏側のコルクには、天然コルクと合成コルクがあります。また、フェルトを使用していることもあります。

### • 金属製のネックとベル

バスクラリネットやバセットホルンなどの場合、ネックやベルは銅合金（真鍮やニッケルシルバー）、さらには純銅で作られています。それらは通常、銀やニッケルでめっきされているか、時には直接ラッカーが塗られています。



# クラリネット



## 適合性一覧

### ウイルスに対して効果を発揮する製品のまとめ

アルコール（エタノール、 $C_2H_6O$ ）は、70%以上の濃度で無添加でなければなりません。  
 イソプロピルアルコール( $C_3H_8O$ )は、70%以上の濃度で無添加でなければなりません。  
 塩素系漂白剤（次亜塩素酸ナトリウム、 $NaClO$ ）は、0.5%の有効塩素に等しい濃度を有する必要があります。  
 NF EN 14476規格に準拠した消毒剤は、メーカーが推奨する時間を守って塗布してください。

楽器全体に薬剤を使用する前に、楽器を必ず楽器の一部でテストして、結果を確認してください。

クラリネット	内径	管体/バレル/ベル			キー/ネック/ベル			
		仕上げ	オイル	研磨された木材、複合材	着色した木材	ラッカーを塗った木材	ABS樹脂	銀
エタノール (70 %以上)	○	○※	×	×	未検証	○	○	○
イソプロピルアルコール (70 %以上)	○	○※	×	×	未検証	○	○	○
塩素系漂白剤 (有効塩素0.5 %)	×	×	×	×	×	未検証	×	未検証
過酸化水素水 3 % (10倍希釈)	×	○※	○	○	○	○	○	○
NF EN 14476 製品 (例：サニトール®サニークロス®など)	×	○※	アルコールなしの場合○	○	○	○	○	○
石鹼水 / 中性洗剤	×	×	×	×	×	○	○	○
乾いた布 (抗ウイルスではない)	○	○	○	○	○	○	○	○
UV-C (220 à 280 nm)	未検証							

※ ビュッフェ・クランボン・ジャパンで検証を行ったところ、木材に消毒用薬剤を使用した場合、演奏には支障がなかったものの、色落ちが確認されたため、推奨しません。

クラリネット	キーのパッド&コルク				マウスピース*			
	仕上げ	革、フィッシュスキン	コルク	合成素材	ゴアテックス	エボナイト	ABS樹脂	PMMA (アクリル樹脂)
エタノール (70 %以上)	○	○	可能だが乾く	未検証	推測では可能	新品または新品同様の場合○	○	○
イソプロピルアルコール (70 %以上)	○	○	可能だが乾く	未検証	推測では可能	新品または新品同様の場合○	○	○
塩素系漂白剤 (有効塩素0.5 %)	×	×	×	×	×	○	○	○
過酸化水素水 3 % (10倍希釈)	○	○	○	○	○	×	未検証	未検証
NF EN 14476 製品 (例：サニトール®サニークロス®など)	○	○	○	○	○	未検証	未検証	未検証
石鹼水 / 中性洗剤	未検証	未検証	未検証	未検証	未検証	冷水と刺激の弱い石鹼の場合のみ○	○	○
乾いた布 (抗ウイルスではない)	○	○	○	○	○	○	○	○
UV-C (220 à 280 nm)	未検証				×	未検証		

\* マウスピースの具体的な事例については、p40をご参照ください。



## クラリネット



### 消毒のポイント

消毒には、前述したように抗ウイルス製品を使用することを推奨します。楽器にこれらの製品を使用を控えたい場合は、清潔な道具で拭いて乾かしてから、隔離期間を置く必要があります（p. 6の隔離に関する章を参照）。

#### • 内径

楽器を個人使用している場合でも、使用後に必ず楽器の内部（バレルや内径）、上管、下管、ベルを掃除し、乾かしましょう。現時点で収集された試験結果によれば、エタノールやイソプロピルアルコールなどの溶液は、クラリネットに使用した際に、その材料を問わず、最も内径を傷めない製品です。

これらの2つの薬品のうちいずれかを浸したスワブを楽器の中に数回通しても、ボアの形状が損なわれる現象は報告されていません。

#### 消毒手順例

- 手を洗う。
- 清潔なスワブを取る。
- スワブにアルコール（70%以上のエタノールまたはイソプロピルアルコール）を塗布する。
  - ※ 塗布量のコントロールがしやすいスプレーボトルの使用を推奨します。
  - ※ 布の両面に5回ずつ噴射するなど。
- アルコールを塗布したスワブを、少なくとも2回、バレルからベルへゆっくり通す。
  - ※ この作業によって楽器の外側を損ねないように注意しましょう。
- 必要に応じて、別の乾いた清潔なスワブを通して、余分な薬剤を除去する。
- 消毒に使用したスワブは、消毒、洗浄して再利用するか、廃棄する。
- 再度手を洗う。



## クラリネット



### • 楽器の外側（バレル、管体、ベル、キーなど）

現在実施されている試験結果によれば、エタノールやイソプロピルアルコールなどの溶液は、異なる仕上げのキー（銀めっき、ニッケルめっき）に対応できますが、楽器の美観を損なう可能性があります。研磨された木の場合、脱脂力のあるアルコールを使用すると、木の表面の艶が消え、着色されたクラリネットの場合は、塗料を溶かしてしまいます。

このため、過酸化水素水（10倍希釈）または第四級アンモニウムを有効成分とする製品の使用を推奨します（NF EN 14476規格製品の大半が該当します）。グリシンやグリセロールなどが添加されているものは、べたつきの原因があるため使用を避けましょう。

### 消毒手順例

- 手を洗う。
- 清潔な布を取る。
- 布に過酸化水素水（10倍希釈）を塗布する。
  - ※ 塗布量のコントロールがしやすいスプレーボトルの使用を推奨します。
  - ※ 布の両面に5回ずつ噴射するなど。
  - ※ 楽器の外側（キー、管体、マウスピース、接合部）を拭く。※
- 必要に応じて、別の乾いた清潔な布でも拭き、余分な薬剤を除去する。
- 消毒に使用したスワブは、消毒、洗浄して再利用するか、廃棄する。
- 再度手を洗う。

**※訳注：**ビュッフェ・クランポン・ジャパンで検証を行ったところ、接合部を含む管体やマウスピースに消毒用の薬品を用いた場合、演奏に支障はないものの、楽器が変色してしまったため、推奨していません。

薬品を用いる場合、キーのみ消毒することをお勧めします。その際、管体、マウスピースは乾いた清潔な布で拭いてください。



## 協力

BUFFET-CRAMPON SAS Milena CRETON - Michael JOUSSERAND - François BILLECARD

VANDOREN SAS Jean-Charles MORAND - Emmanuel TONNELIER

PARMENON Pierre HELOU - Remi CARON

HENRI SELMER PARIS Jérôme SELMER - Bruno FOURREAU - Arnaud MONTOIS

MARIGAUX SAS Renaud PATALOWSKI

F. LORÉE Marie Léa DE GOURDON

Facteur de flûtes à bec Claire SÉCORDEL

ITEMM Romain VIALA - Carole LE RENDU

CSFI Jacques CARBONNEAUX - Coraline BAROUX-DESVIGNES - Fanny REYRE-MÉNARD

Graphisme Stéphane NEIDHARDT - Angéline RELLO (BUFFET-CRAMPON SAS)

© photos : Buffet-Crampon SAS, Henri Selmer Paris, F. Lorée - de Gourdon, Vandoren Paris, Claire Sécordel